



# 第56回 津久見扇子踊り

8月25日、第56回津久見扇子踊り大会が行われました。天候不良のため、一日順延し、本番当日も雨が降る心配がありましたが、無事に雨も上がり、22団体、およそ700人の踊り手が参加しました。揃いの浴衣に身を包んだ踊り手が扇子踊りを始め、三勝、津久見音頭を披露し、美しい舞姿が津久見の晩夏の夜を鮮やかに彩りました。



## 津久見扇子踊り

Tsukumi Sensu Odori



【津久見扇子踊り】 大分県指定無形民俗文化財

今から約450年前、戦国時代に戦没した勇士や農民の供養の願いをこめて、京舞いの流れを組む扇子踊りを大友宗麟が創設したと伝えられています。この踊りは、豪弓を引き絞る勇者のおもむき、乱戦の最中、古式床しくもたしなみ装う「合せ鏡」の姿、果ては「エイエイオー」の勝利の声、さながら当時をしのぶ武士の心を今見るように感じられ、優雅・豊麗・哀愴をこめた扇子の流れも美しい舞姿は津久見市を代表する郷土芸能として今日まで引き継がれております。